

令和3年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	公益財団法人岡山文化芸術創造	
施 設 名	岡山シンフォニーホール	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	21,793	(千円)
公 演 事 業	14,371	(千円)
人 材 養 成 事 業	2,621	(千円)
普 及 啓 発 事 業	4,801	(千円)

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	岡山フィルハーモニック 管弦楽団 定期・特別演奏 会	令和3年5月23日他 ※	出演：福田廉之介, 赤坂智子 ほか 曲目：モーツァルト/歌劇「劇場支配人」序曲、 モーツァルト/ヴァイオリンとヴァイオンのための協奏交 響曲、シューマン/交響曲 第4番 ニ短調 など	目標値	6,900
		岡山シンフォニーホール		実績値	3,730※
2	ホールフェスティバル 「シンフォニーは友達！ 2021」	令和3年8月12日	[昼の部] 出演：指揮/石崎真弥奈、 内容：ベートーヴェン物語 [夜の部] 出演：石崎真弥奈, 管弦楽 /岡山フィルハーモニック管弦楽団 曲目：ベートーヴェン/交響曲 第6番 「田園」	目標値	1,700
		岡山シンフォニーホール		実績値	1468※
3	I am a SOLOIST スペシャル ガラ コンサート	令和3年9月12日	出演：指揮/矢崎彦太郎, 中桐望, 森 野美咲, 福田廉之介 曲目：グリーグ/ピアノ協奏曲, モーツァルト /Exsultate Jubilate, フツチニ/ホラ 「ジャンニ・スキッキ」より”私のお父様”, 北原白秋作詞・山田耕筰作曲/「から たちの花」, プラムス/ヴァイオリン協奏曲	目標値	1,200
		岡山シンフォニーホール		実績値	900※
4	岡山フィルハーモニック 管弦楽団 特別演奏会～シ ェレンベルガーが紡ぐモ ーツァルト至高の世界～	令和3年12月5日	新型コロナウイルス感染症の影響により、 合唱練習が困難なため、曲目を変 更して開催した。 出演：指揮・オーボエ/ハンスイェルク・シレン ベルガー, 岡山フィルハーモニック管弦楽団 曲目：モーツァルト/テ・イヴ・エルトメント K. 136, /オーボエ協奏曲//交響曲第41番 「ジュピター」	目標値	1,600
		岡山シンフォニーホール		実績値	900※
5	小曾根真 60th Anniversary ソロ・リサイ タル	令和4年2月27日	出演：小曾根真, 中村俊也 曲目：小曾根真/Gotta Be Happy, Struttin' in Kitano, Listen, O' berek, フロフィエ/ピアノソナタ第7番「戦 争ソナタ」第3楽章, ラヴェル/ピアノ協奏曲ト 長調より第2楽章, Jerome Kern/Oscar Hammerstein II/All the Things You are/Hoagy Carmichael : The Nearness of You, 小曾根真/The Puzzle, Where do we go from here	目標値	1,000
		岡山シンフォニーホール		実績値	820

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和3年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ミュージカルワークショップ	2021年4月15日～ 2022年3月25日	コーディネーター・指導：四宮貴久 特別レッスン講師：扉座、深沢桂子 (音楽監督・作曲家), 小川美也子(ボ イストレーナー), 川口竜也(ミュー ジカル俳優) 基礎レッスン講師：古川恭子(歌), 横山佳奈子(振付師) 発表成果公演演目：モダンミリー	目標値	852人(楽 しむコース 20人・し っかり学 ぶコース 32 人・公演 入場者 800人)
		岡山シンフォニーホール 他		実績値	入場者 415人・ 参加者 55 人※
2	The MOST in JAPAN 2021	2021年10月9日	出演：リスト/横山藍子, 吉田早希、渡邊 桜子 福田 廉之介, 小島 燎, 関朋岳, 竹田 樹莉果, 小林杏成, 倉富 亮太, 戸澤 采紀, 正田響子, 田原綾子, 山根風 仁, 上村文乃, 岡本潤 曲目：芥川也寸志/弦楽のための三楽 章—トリフテイク、パッサカリア/協奏曲第7 番 BWV1058 ト短調, ササテ/ツィンネル イェン, ドヴォルザーク/弦楽セレナーテ ホ短 調 作品22	目標値	入場者 800人
		岡山シンフォニーホール		実績値	入場者 650人・ 参加者 3 人※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和3年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	小・中学校音楽鑑賞教室	2022年1月18日※	出演：指揮/横山奏 曲目：小六禮次郎/鳥城浪漫, シベリウス/交響詩「フィンランディア」, エルガー/エニグマ変奏曲 第9変奏「ニムロッド」 ほか	目標値	1200人
		岡山シンフォニーホール		実績値	487※
2	ファミリーコンサート	(真庭)2021年8月22日 (総社)11月19日	(真庭)出演：指揮/山上紘生 内容：モーツァルト/序曲「フィガロの結婚」 フォスター/「おお!サザン」 (総社)出演：弦楽四重奏、進行/安久津太一, ワークショップ/岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科子ども学専攻4年生20人 曲目：モーツァルト/「アイネクライネナハトムジーク」, デイズニ/星に願いを 他	目標値	600人
		(真庭)真庭エスパースール (総社)岡山県立大学講堂		実績値	308※
3	レインボーコンサート	2022年3月9日	出演者：岡山フィルハーモニック管弦楽団弦楽四重奏 曲目：フック/剣士の入場、グイグアルディ/「四季」より「春」1楽章、パツフェル/カノン 他	目標値	550人
		倉敷市立霞丘小学校		実績値	44※
4	岡山大学Jホールレインボーコンサート	中止	※新型コロナウイルス感染症の影響により事業中止	目標値	600人
		中止		実績値	中止※
5	こども音楽鑑賞教室	(高梁)2021年6月22日/(建部)2021年8月1日	(高梁)出演者：指揮/佐々木新平 岡山フィルハーモニック管弦楽団(22人編成) 曲名：オッフェンバック/喜歌劇「天国と地獄」序曲より「カンカン」 他 (建部)出演者：指揮/山上純司 岡山フィルハーモニック管弦楽団(22人編成) 曲目：ベートーヴェン/交響曲第5番「運命」より第1楽章 他	目標値	700人
		(高梁)高梁市立成羽小学校体育館 (建部)建部文化センター		実績値	367※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>岡山市は広域からのアクセス性が良く、その中心部の歴史文化エリアに位置する当ホールは、アコースティック音楽に対する優れた音響性能において内外から高い評価を得ている。このホールを拠点に活動する県内唯一のプロオーケストラを文化装置として稼働させ、地域・社会に豊潤なクラシック音楽を届けることで地域社会の活性化に貢献すべく、当財団では次の5つのテーマを事業の柱として掲げている。すなわち①「文化芸術性・都市ブランドの向上」、②「心豊かな教育への貢献」、③「明日を担う人材の育成」、④「社会的包摂の取組推進」、⑤「岡山の活性化」に積極的に取り組むことである。これらの目標に例して事業実施することにより地域の持つ特色をより大きく開花させることが、当ホールに求められる社会的役割と考えている。</p> <p>前年度から続く新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けつつも、2021年度は長期間の活動停止に陥ることなく、着実に活動を積み重ね地域活性化への足掛かりを構築してきた。またホールから外部施設に赴き、コロナ禍のため地域外への移動に抵抗のある人々へ豊かな音楽を届けるべくアウトリーチ事業にも引き続き取り組んだ。</p> <p>【公演事業】予定されていた演奏会はすべて開催するとの強い決意のもとで、工夫を重ねるなか、第九演奏会と第71回定期演奏会はプログラムと指揮者・ソリストを変更しての開催となった。</p> <p>【人材養成事業】全公演が開催できた。ミュージカルワークショップのレッスンでは、前年に続きリモートレッスンの活用と、リアルな講座を組み合わせる予定通り実施した。</p> <p>【普及啓発事業】5事業のうち、3事業が新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた。大学病院内の会場であるJホール公演は全ての公演を中止した。また、小・中学校音楽鑑賞教室は、当初の開催日が蔓延防止期間にかかったため、日程を変更しての開催となった。レインボーコンサートでは、病院内への同時配信は機材トラブルにより断念し、後日録画データの提供となった。感染拡大状況を注視しながらの開催であり、収容人数の半分以上を上限とする会場もある中で最大限の努力をしながら開催を目指し努力した。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>前年度に続き、新型コロナウイルスの感染拡大状況を注視しながらの活動であり、開催の中止や動員人数の半減など演奏会への影響は顕著であった。定期演奏会については、長く来日が叶わなかった首席指揮者シェレンベルガー氏による指揮が実現し、聴衆も彼の音を求めてホールを訪れた。合唱の第九演奏会は今年度も難しいとの判断から、第九演奏会についてはシェレンベルガー氏の指揮とオーボエ演奏を含むモーツァルトプログラムに変更しての開催となった。しかし、3月には再来日が叶わず、急遽指揮者と演奏内容を変更しての開催となった。定期演奏会をできる限り開催する当館の方針は、当ホールが岡山県内の音楽文化を牽引する立場にあることを踏まえ、芸術活動を継続維持することが地域の人々の文化面・経済面での活動の活性化につながると考えてのことである。また、人材養成を担うミュージカルワークショップでは、前年度に続きオンラインを活用したレッスンを臨機応変に用いたことで、練習初期の細かな問題点の解決や移動時間の解消の一助となった。レッスンが高度になるにつれオンラインレッスンでは調整できない部分が生じると、参加者たち自身で新たな課題を見出し取り組む場面もあり、近い将来に社会を構成すべき人材を養成する場を提供することが出来た。また普及啓発事業では、レインボーコンサートを通して病院施設内への動画配信に向けての課題を見出すことができ、コロナ禍で音楽を届けることが出来ていなかった病院施設に向けての取り組みに新たな方途みつけられた点も社会面での意義と言えよう。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【公演事業】オーケストラを活用した豊かで多様な音楽芸術の創造・発信を通じて、地域に愛着や誇りが持てるよう、また岡山独自の魅力を発信することにより地域における実演芸術の振興を図ることを目的とした本事業において、2021年度はすべての定期・特別公演を実施出来た。ただ、合唱付きの第九演奏会は実現できず、プログラムを変更しての演奏となった。また3月定期演奏会では、海外から首席指揮者を招くことができず、曲目と指揮・ソリストを変更しての開催となった。

アンケートの結果から達成率（実績値÷目標値）を算出した結果は、次の通りである。目標①公演満足度は達成率93%（実績値87%、目標値93.5%）。目標②子どもの観客割合増加は40%（実績値4%、目標値9%）。目標③市外からの観客割合増加86%（実績値33%、目標値38%）。目標④招待者数の増加52%（実績値105名、目標200名）。目標⑤岡山に愛着心や誇りを持てる人の割合増加108%（岡フィルのファン40%、地域への普及度90%、目標値60%）。目標⑥ガイドラインに沿った運営については、感染症対策に「大変安心」「安心」し、且つ公演に「大満足」「満足」と回答した観客は79%であった。

【人材育成事業】地域の芸術文化を担うアーティスト達を育成し、その表現の機会を提供することにより日本から世界へはばたく人材を輩出することを目標とする本事業では、地域の芸術文化を支えていくリーダーを養成し、地域の芸術文化の醸造を図っている。

ミュージカルワークショップでは、目標①「国内外で活躍中の経験豊富な音楽家、講師陣を招へいし専門別のレッスン等を行い、地域の芸術文化を担うアーティストの育成を図る」ことについて、受講生の達成度は66.1%、指導者からみた課題への取り組み達成度は91.66%であった。目標②出演者数の累計を増やすことについては101%の達成率（実績値221人、目標値218人）であり、今年度のオーディション合格者数は6人であった。目標③with コロナ時代にも停止しない活動としての挑戦では、Zoomレッスンを取り入れたところ、「動画を何度も繰り返し見させて頂いて復習することが出来て、とても有難い」などの感想が聞かれた。感染症拡大前には見られなかった新たな手法の導入に、受講生は前向きかつ柔軟に挑んでいたといえる。

国内外で活躍している若手音楽家たちとの共同企画による公演である「The MOST in JAPAN 2021」では、当財団主催の「I am a SOLOIST」事業出身の若手音楽家が率いる弦楽オーケストラ公演に、オーディションで選ばれた地元の中学2年生、1年生、小学5年生が挑戦した。課題曲の「ピアノ協奏曲第7番 BWV1058 ト短調」では、掲げた目標に対し「ミスタッチがあったのが悔しかったが、楽しく弾けた」と自身の成長とその結果を受け止めており、本公演が奏者の世界を大きく広げる体験となったことがうかがえる。

【普及啓発事業】岡山フィルハーモニック管弦楽団や当館ゆかりの音楽家等を活用して目標の達成に取り組んだ。

目標①子供達への本物の音楽体験の提供では「初めての参加者割合」が達成率140%（実績値52%、目標値37%）、子ども向け鑑賞会数の増加では達成率107%（実績値50%増加、目標46.5%）であった。目標②子どもたちの心豊かな教育への貢献においては、演奏後「誰かに話したくなった」達成率116%（実績値30.3%、目標26%）、「新しいことに興味がわいた」達成率60%（実績値18%、目標30%）、「音楽や楽器をやりたくなった」達成率71%（実績値30%、目標42%）との回答があった。教師・保護者へのアンケートでは、指導教員全員が「変化があった」と回答している。目標③「社会的包摂の取組推進」を目標に小学校で行ったレインボーコンサートでは、病院2施設へ配信するよう試みた。目標④岡山の活性化への尽力では、達成率91%（実績値82カ所8,098人、目標値90カ所8,444人）であった。目標⑤公演数・参加者数の前年比50%増加では達成率46.4%（実績値6公演1,162人の達成、目標値6公演2,500人）であった。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

前年度に続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響をうけ、日程を変更せざるを得ない公演もあり、大学病院施設内のホールを使用しての公演は全て中止となった。

開催中止・または日程変更となった事業は次の通りである。

- ・普及1 小・中学校音楽鑑賞教室：6月から1月に日程を変更して開催
- ・普及3 レインボーコンサート：8公演のうち7公演中止
- ・普及4 岡山大学Jホールレインボーコンサート：12公演全中止

日程の変更に伴い、「小・中学校音楽鑑賞教室」では、参加校の再募集からすべてのスケジュールをやり直すこととなった。また、地域での感染者数増加に伴い、開催当日にも中止の連絡が入ったことから、現場で座席配置を変更するなどの対応が生じた。

「レインボーコンサート」においては、開催できた1件が準備期間の無い中での公演であったことから、日程調整・動画の同時配信の段取りが充分ではなかった。残念ながら動画の同時配信は叶わなかったが、後日の配信にて鑑賞いただけた。

「岡山大学Jホールレインボーコンサート」においては、開催場所が大学病院敷地内であるためホールの使用許可が得られず、2年続けて全ての公演を中止とすることとなった。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

当初計画していた各事業は、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言の発令と蔓延防止期間などにかかり、何度も見直しを余儀なくされた。コロナ禍により一部事業の中止や実施内容を変更したことで、助成対象経費が減少したため補助採択額には達しなかった。

公演事業では指揮者・ソリストの変更や曲目及び編成の変更が生じ、結果的にギャラが下がり、当初計画の約19.3%低い総額での決算となった。

人材育成事業においても当初計画の約22.2%低い金額での決算となった。

影響が大きかったのは普及事業であり、50.8%低い金額での決算となった。大きな要因としては12回公演を予定していた大学病院敷地内ホールでの演奏が全て中止となった点、また8公演を予定していた社会包摂事業であるレインボーコンサートも、対象施設が受入れ不可のため7公演が開催できない状況となったためであり、新型コロナウイルスの感染拡大が活動計画に影響を及ぼしたことは明確な結果となった。

一方で、速やかに変更申請を行ったことで、変更後は事業費・計画の進行ともに適切に進めることが出来たと考えている。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

当ホールの最大の特徴はアコースティック音楽の会場としては国内有数の音響性能を有するホールと、そのホール座付きの、県内唯一のプロオーケストラである「岡山フィルハーモニック管弦楽団」（以下、岡フィルと表記）を有している点である。国内有数の音楽ホールにおいて、オーケストラを文化装置として機能させること豊かな音楽を岡山県内外に提供することに他ならない。新型コロナウイルスの感染拡大に留意しつつも、定期演奏会や子ども向けの演奏会を停止させることなく開催できたことは、団員・職員・観客の努力と協力によるものであった。開館 30 年を迎えた本年度は、岡山から世界へと羽ばたいている若手演奏家によるガラコンサートを開催し、30 年の歴史の中で培われた一流の人材と共に着実に積み重ねられた当館の歴史を地元の皆様と共有することができた。

公演事業においては、内容や出演者・編成の変更はあったものの、全ての公演を無事に開催することができた。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、2 年間来日の叶わなかった首席指揮者・シェレンベルガー氏がタクトを振った 10 月定期演奏会では、「シェレンベルガーさんが指揮されたことが嬉しい」などのコメントが見られた。また「今日のカーテンコールを見ながら（楽団員が）シェレンベルガーとの再会を喜び感謝の気持ちを持っていることがわかった。」など、演奏者の感動が観客にも伝播していったことがアンケートからうかがえた。地元のオーケストラである岡フィルを応援したいという聴衆の思いは、地域への普及度を図る「公演を他の人に勧めたいか」への回答が「勧める」90%と昨年に続き高い数値であることから読み取れる。第 71 回定期演奏会もシェレンベルガー氏の来日が叶わず、急遽プログラムを変更しての開催となったが、ヴィヴァルディとピアソラの 2 種類の「四季」を取り上げるなど挑戦的なプログラムを組むことができた。2 年も続くコロナ禍を通して、演奏者も聴衆もこれまでの常識にとらわれず新たな課題に挑戦し、その成果を受け入れる逞しさを培ったようである。また、予定されながらも実現できなかったシェレンベルガー氏の首席指揮者退任の記念プログラムについては、「状況が許せばもう一度シェレンベルガーの指揮を、演奏を聞きたい」などの声もあり、逆境下でも粘り強く応援をしてくれる地元のファンが着実に育っていることがうかがえた。

人材育成事業においては、ミュージカルワークショップと「The MOST in JAPAN 2021」を開催した。ミュージカルでは、前年の経験も踏まえ、ZOOM やアーカイブの活用、2 グループに分かれてのレッスンを試みた。「一人一人を見てもらえた」「アーカイブがあると練習がはかどる」などの良点が聞かれる一方で、「コーラスは出来ない」「他の方との関係性が作りにくい」などの問題点も浮き彫りになった。受講者の中には「コロナ禍で時間が出来たので始めた。コロナ禍じゃなかったら歌も演劇もダンスも頑張れてなかった。」という受講生もおり、本事業が with コロナという環境下でも持続可能な事業であることをうかがわせた。本番終了後のアンケートでは「ワークショップの満足度」について、参加者の 7 割が 100%満足、2.5 割が 75%満足と答えた。参加者全員が、受講を通して成長を感じていると回答しており、今後への発展が大いに見込まれる事業となった。

また「The MOST in JAPAN 2021」においては、若手演奏家の活躍に、聴衆は未来への希望と心の潤いを得たようである。演奏に参加した地元の若手演奏家（中学 2 年生、1 年生、小学 5 年生）たちも、将来に向けての展望と課題を見つけることができ、今後につながる演奏会となった。

普及啓発事業として、小学校へ赴いての演奏会では、コロナ禍のため学校行事が制限される閉塞感から子どもたちを解放し、心を潤す時間を提供できた。実際に目の前で奏でられる生の音楽の力に触れ、子どもたちの心に響いていたことは本事業の目的を果たせたと考えられる。

以上から 2021 年度の事業は、いずれも地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する事業であり、今後へつながる成果を示したと言える。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

前年度に続き、新型コロナウイルス感染拡大状況に注意をしながら、各事業を行うこととなった。長く続くコロナ禍において新たなマナーも定着し、各演奏会ではお客様も抵抗なく検温・消毒にご協力くださるようになった。演奏者・職員・お客様の協力のもと、今年度の演奏会は、一部日程や内容の変更はあったが全て計画通り開催することができた。事業全体を通しての満足度は87%であり、感染症対策を実施した状態で安心して公演を楽しめたと答えた人の割合は76%であった。このことから、感染症対策と来館者への対応については、適切な対応が出来ていたと判断できる。地域への普及度（公演を勧めたいか）では、90%が「勧める」と答えたことから、岡山シンフォニーホールでの岡フィル演奏会は、一定以上の信頼を来場者から獲得していると認められる。

岡山市内の学校が岡山シンフォニーホール訪れて鑑賞する「岡山市小・中学校音楽鑑賞教室」は、緊急事態宣言の発令に伴い一度は開催を見送ったものの、1月に日程を再調整し開催した演奏会である。日程変更に伴い、当初の申し込み校より参加希望校が増えるなどの事例が見られたが、開催直前に3校のキャンセルがあるなど、予断を許さない状況での開催となった。参加した小学校の教員からは「鑑賞教室に参加したことで、期待した効果があったと思われるか」との問いに対し、「効果あり」43%、「ある程度効果あり」57%と答え、回答者全員が効果があったと認識していることが判明した。アンケートからは「生の演奏を聴くと児童の瞳がきらきら輝いていました。Liveが一番です」「子どもたちが『音がきれいで感動した。』や『リズムを一緒にして楽しかった』などと話している。」などの回答が寄せられた。参加者のうち、52%が初めてオーケストラを体験した子どもたちであったが、演奏を聴いた後の感想では「最高」41%、「とても楽しい」28%、「結構楽しい」19%、「どちらかといえば楽しい」6%と答えており、全体の94%がオーケストラを楽しんだと回答した。また、「演奏会の後、自分の中で何か変わったことがあるか」との問いでは、30%が「音楽や楽器をやりたくなった」と答えており、本事業が実演芸術の振興という課題に対し、大きな効果を発揮していることがわかる結果であった。

『モダン・ミリー』に取り組んだミュージカルワークショップにおいては、参加者28名のうち6名が事業を通じての成長度が100%であると自己評価した。達成度においても、5名が100%、11名が75%と回答した。これらの結果からは、ミュージカルワークショップが、参加者に成長と自信をもたらしたと言える。練習では前年度に続き、オンラインレッスンを採用した。オンラインと対面のレッスンそれぞれに見られる長所・短所への気づきもあり、新しい手法と従来の方法と使い分けて、より効率よくレッスンを進める動きが見られた。アンケートでは「コロナで集まれず、初めて体験したzoomでのLessonも、逆に、先生方をはじめ、お一人お一人の表情を間近で拝見することが出来て、今マスクでお互いの表情が見えない中、とても貴重で楽しいLessonだと感じました。」などの回答があった。また、指導を担当した講師からは「昨年度、そして本年度はさらに期待値を超えてきました。指導者でありながら、自分には持ち得ない発想・表現も見ることができました。」とあり、受講生から講師が刺激を受けていることが読み取れる。本事業を通じて、講師と受講生が相互に刺激あい、成長することで、岡山に創造性に富んだ舞台人口が増えつつあることが、これらからはうかがえる。

以上より、2021年度の事業は、地域の実演芸術等の振興と、地域の文化芸術の発展に一定以上の影響をあたえていると判断できる。特に若年層への働きかけは、今後の音楽・舞台芸術を支える裾野を広げることに大きな一手となりえたと言えよう。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

本事業の運営は、新型コロナウイルスが感染拡大を続ける中で、見直しを幾度も求められたものである。演奏会直前に緊急事態宣言や蔓延防止措置が発令されるなど状況が変動する中でも、2001席のキャパシティをもつ当ホールでの予定していた大規模演奏会は全て完了することができた。出演者や曲目の変更にも迫られながらも、芸術文化の発信を留めることなく続けることが出来たのは、お客様方の理解と応援とともに、出演者と職員の努力も大きい。当館はホール付きプロオーケストラを有することから、ホール運営の停止はそのままオーケストラの演奏活動の停止にも直結する。岡山県内における音楽芸術文化の拠点施設である当館の運営が安定して継続されることが、県内の芸術・文化活動の火を絶やさぬことにつながっているといえよう。

高い専門性を有する職員が在任している岡山シンフォニーホールを含む当財団では、新劇場（岡山芸術創造劇場）オープンを2023年9月に迎える中、財団全体の方向性の確認を行うとともに新劇場と岡山シンフォニーホールそれぞれのミッション・ビジョンの実施に向けて職員の育成が急務である。また、大学からのインターンシップの受け入れ、若い人材の育成にも取り組んでいる。2021年度はコロナ禍のため日数は限られたが、大学・専門学校と相談しつつ、無理のない日程と環境・人数で受け入れを行った。

【岡山科学技術専門学校映像音響学科】年間通じて9日、延べ195名が舞台の設営・撤去を実地にて体験した。

【くらしき作陽大学音楽学部】年間通じて20名が参加。19日間のうち学生が8日間を選択し、レセプション等の業務を中心に現場を体験した。

参加した学生からは「将来、子どもたちにコンサートを聴かせるときに今回の身に付けた知識などを基に子どもたちにも教えてあげたり子どもたちとコンサートを楽しめると思いました。」などの感想も聞かれ、岡山の音楽文化の担い手を育む機会となった。

ネットワークの構築としては、ホール周辺の美術館・博物館・図書館等の施設と平時より密に連携しており、各施設での出張演奏も行っている。また2023年にオープンする新劇場も当財団が指定管理者となることから、混乱なく施設利用が可能になるように、当館の蓄積してきたノウハウを共有するとともに、新たなシステムの導入も検討している。

このように様々な角度・手段から芸術・文化の浸透と発展に力を注いできたが、現状その効果は音楽・舞台に携わる人に限られる傾向が見られる。音楽文化・芸術は非日常であり、特別な物であるという認識がまだまだ根強い。これに対し、当館では岡山市内の小中学生を対象とした鑑賞教室の開催や、学校への出張演奏に取り組んできた。新型コロナウイルス感染拡大の状況下でも、生の演奏を児童・生徒に体感させたいと願う学校側の尽力もあり、高梁市立成羽小学校、倉敷市立霞丘小学校、岡山県立大学での演奏が実現した。また各地方ホールにて、親子を対象にした演奏会も行い、音楽を身近に感じてもらえるようその活動を継続した。アンケートからは、「本物の楽器や演奏に触れて児童の目の輝きが素晴らしい物であった。今年度になって初めて、郊外での行事でもあったので児童も職員も大変充実感がありました。」（教員）などの回答もあり、楽器を演奏したいと答えた児童・生徒も見られた。コロナ禍にて地域からの移動の制限がかかる状況が続いたため、出前公演への要望は強くなっているようである。

上記より、ホール運営と座付きオーケストラのホール内外でのより活発な活動の両方が、当財団においては求められていることは明白である。専門性の高い職員を維持しつつ、次代を担う職員の採用と育成が今後の組織継続の課題となる。この点については2023年開館となる新劇場の運営も見据え、すでに対応を始めており、組織の持続的発展と活動の継続に向けて動いている状態である。